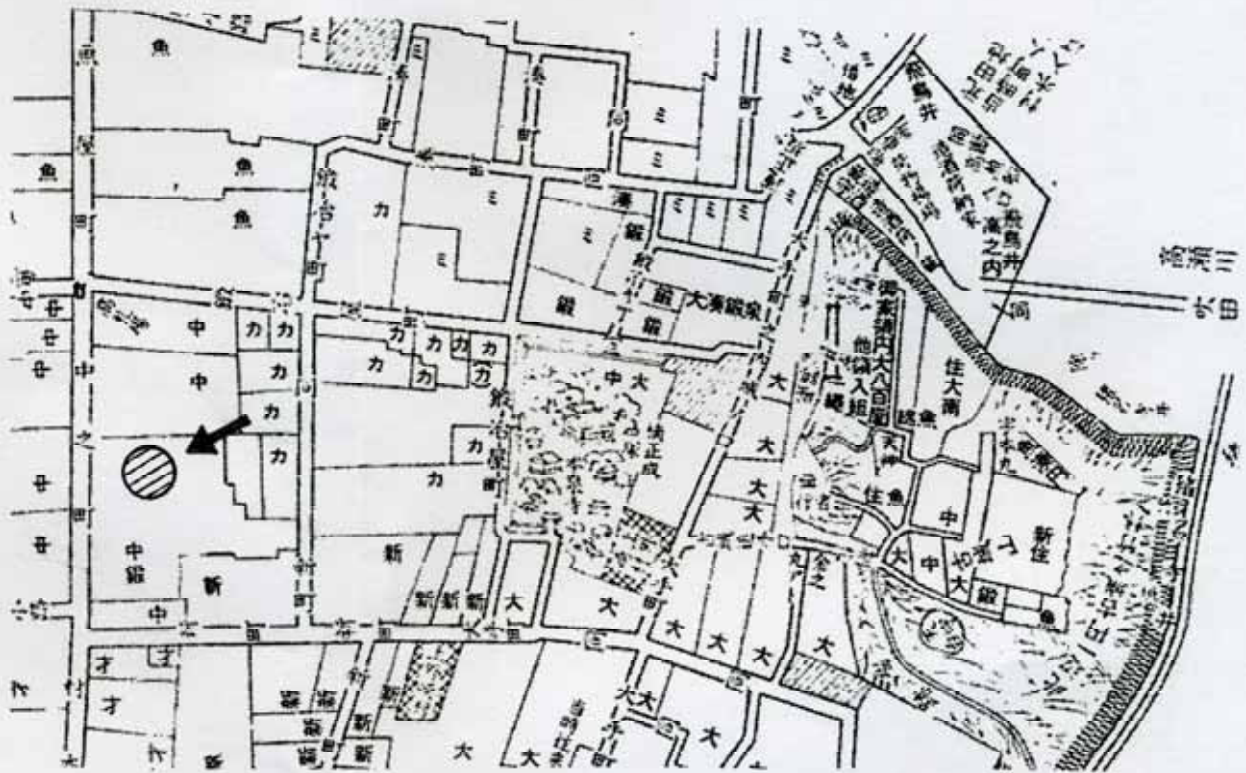


有岡城跡・伊丹郷町遺跡 3 1 7 次調査 現地説明会資料



「天保15年伊丹郷町分間絵図」（『伊丹古絵図集成』より部分掲載）

2008年1月19日



伊丹市教育委員会



有岡城跡・伊丹郷町遺跡 第 317 次調査 現地説明会 資料

現在，調査中の有岡城跡・伊丹郷町遺跡第 317 次調査地点において，江戸時代の酒蔵跡や，戦国時代の有岡城の堀跡が発見されました。調査はまだ継続中ですが，その中間成果を報告いたします。

1. 遺跡名 有岡城跡・伊丹郷町遺跡
2. 調査回数 第 317 次調査
3. 調査原因 店舗（銀行）建設に伴う発掘調査
4. 調査地 伊丹市伊丹 2 丁目地内
5. 調査期間 平成 19 年 11 月 19 日～平成 20 年 2 月（現在調査継続中）
6. 調査面積 480 m²
7. 調査主体 伊丹市教育委員会



堀 SF01 南より。中央に搾り場の遺構が見える

遺跡の概要

本遺跡からは、古くは縄文・弥生・古墳時代の遺構・遺物が検出されますが、主たる時代は鎌倉時代～江戸時代です。この間は、伊丹氏及び荒木村重が居城していた鎌倉時代～安土桃山時代を「伊丹城・有岡城期」、有岡城廃城後、酒造業で栄えた江戸時代を「伊丹郷町期」に分けられます。この2時期の遺構の概要について、以下に説明します。

* 伊丹城・有岡城期

在地武士の伊丹氏の居城である「伊丹城」は鎌倉時代末期には存在したと考えられています。永禄11年(1568)に織田信長が入京すると、伊丹氏は信長方につき、「摂津三守護」の一人になりますが、荒木村重によって天正2年(1574)に落城します。

荒木村重は伊丹城を「有岡城」と改め、侍町と町屋の全体を堀と土塁で取り囲んだ「惣構え」の城に大改造したと考えられています。

中世の城では、城と家臣団の居住地や町屋地域は離れた所にありました。それが次第に近接するようになり、室町時代末期には城と町を堀や土塁などの防御施設によって囲む「惣構え」の城が造られ始めます。有岡城は「惣構え」の城としては早い段階で成立した城で、歴史的に重要視されています。

有岡城の構造は、「信長公記」の記述や江戸時代の絵図などから、主郭は現在のJR伊丹駅付近とされ、その西側に侍町、さらにその西側一帯に町民の住む町が広がっていたことがわかっています。

主郭部の発掘調査では、主郭部の周囲に内堀と土塁が設けられていることがわかり、内堀の規模は幅約15m、深さ約2.5m以上で、石垣はなく、素掘りの堀であることも確認されました。さらに、主郭部西側にあった侍町の発掘調査では堀跡を数カ所検出し、幾重にも堀を巡らしていたことがわかりました。また、江戸時代に描かれた「文禄伊丹之図」(第3図)では、伊丹郷町の中央部を南北に流れる「大溝筋」が描かれ、それに平行するように土塁が表現されていることから、侍町と城下町を区画する防御施設が設けられていたと考えられていました。平成11年の県道伊丹停車場線の発掘調査や平成15年の第276次調査(現二トリ)で、大溝筋の直下か

伊丹郷町期（第1・2次面） →第5・6図参照

江戸時代（伊丹郷町期）の酒蔵と、その内部から酒造遺構「搾り場（^{ふなば}槽場）」が発見されました。また、千秋蔵以前の搾り場も発見し、なかには江戸時代前期（17世紀後半）の搾り場もあることがわかってきました。

伊丹郷町期の資料としては、酒造遺構を検出しています。東壁より約6m付近で土間と、これに伴う礎石を数基検出しました。礎石は数段の根石を積んでおり、大型建物に対応するためと考えられます。さらに、この建物内からは搾り場遺構（男柱と搾った酒を受ける^{たれつぼ}垂壺の組み合わせ）を4基検出し、この大型の礎石建物が酒蔵であったことがわかりました。

検出された4基の搾り場遺構は、「1槽さし単基型」と、「1槽さし連基型」が2基セットになったものです。これらの埋土から出土した遺物の年代から、「1槽さし単基型」は18世紀末～19世紀前半、「1槽さし連基型」は19世紀前半～後半のものであると考えられます。また、17世紀後半ごろのものと考えられる搾り場遺構も検出しました。

おわりに

今回の発掘調査では、有岡城の堀跡、江戸時代中期から後期にわたる酒造遺構を検出しました。有岡城期の2条の堀跡のうちSF02（堀跡）は、これまでの有岡城跡・伊丹郷町遺跡の発掘調査で検出されている堀跡とは掘削状況や方向性に類似するものが少ないです。また、SF02（堀跡）を築造されて間もない時期にSF01を造ったと考えられ、このような堀跡の構築状況もあまり例がなく、今回の発見は有岡城期の構造を知る上での好資料になると思われます。

また、検出した酒造遺構（搾り場）の年代観により、千秋蔵より前にもここに酒蔵があったことがわかりました。その酒蔵については、残念ながら該当する酒造家はわかりません。今後の研究課題です。調査は今も継続中で、本調査区の詳細はまだわかりませんが、今回の発掘成果は有岡城跡・伊丹郷町遺跡の研究に大きく寄与するものとなりました。

調査成果

第 317 次調査地点は、有岡城主郭部の西南約 250m に位置し、有岡城期では侍町と町屋地区にまたがる地域です。また、江戸時代は伊丹村のうち「中之町」にあたります（第 3・4 図）。

本調査区には、小西酒造株式会社の酒蔵である「千秋蔵」が建っていました。19 世紀中期に建てられたと考えられています。

発掘調査は継続中ですが、現在までに判明した成果について説明します。

* 伊丹城・有岡城期（第 3 次面） → 第 7 図参照

「大溝筋」(堀)とは異なる新たな堀が 2 条発見されました。

有岡城期の資料としては堀跡を 2 条検出しています。

SF01 (堀跡) は調査区中央を北壁から中ほどまで南北方向に延び、中ほどから西へ屈曲しています。規模は、長さ 18m 以上、幅約 3 m、深さ約 1.5m で、断面は逆台形状を呈します。

出土遺物は、備前焼甕、中国製青花皿、唐津焼皿、志野焼鉢、肥前磁器皿などで、これらの出土状況から、有岡城落城後の 16 世紀末～17 世紀前半には埋め戻されていることがわかりました。

この堀跡は、調査区北側に位置する第 276 次調査で検出した大溝筋と考えられる堀跡と主軸が異なるため、別の堀跡と考えられます。

SF02 (堀跡) は調査区北側を東西方向に延び、さらに西壁付近で南へ屈曲しています。規模は、長さ 8.5m 以上、幅約 4.3m、深さ約 2.5m で、遺物の量は SF01 より少ないですが、丹波焼盤、唐津焼皿、中国製青花皿など、16 世紀後半～17 世紀初頭のもので出土しています。

SF02 は SF01 に切られているので、SF01 より前に造られたと考えられます。SF02 のような東西に延びる堀跡は、周辺では第 151 次調査と第 305 次調査で検出されています。これらの堀跡は有岡城より前の段階の伊丹城期に関係する堀と考え



堀 SF02 西より

られています。また、これら伊丹城期の堀は有岡城期の堀を設置する際に埋め戻される例が多いのですが、今回検出した SF02 は、伊丹城期の堀跡を再利用している可能性があります。

さらに、SF（堀）01・SF（堀）02 は、絵図などの歴史資料には記されていない堀跡であり、有岡城の防御施設を考える上で新たな発見となりました。

ら巨大な堀を検出し、その実態が明らかになりました。

大溝筋は、当初は幅約 6m、深さ 2.7mの堀で、形状は逆台形を呈する箱堀であることもわかりました。さらに、昨年度（平成 18 年）におこなった第 305 次・310 次調査では、大溝筋がさらに南側に延びていることがわかりました（第 2 図）。

大溝筋は江戸前期には埋め戻され、その上層に新たに石垣溝が設けられて、現代まで使用されていました。

また、検出した堀跡は現在の地割に平行するものが多く、伊丹郷町内の地割は有岡城期から改変されていないこともわかりました。

* 伊丹郷町期

有岡城は天正 7 年（1579）に信長に攻められ、落城します。その後、天正 11 年（1583）に廃城となり、残された城下町は江戸時代以降、酒造業を中心とした在郷町として発展します。

伊丹郷町を構成する 15 ヲ村のうち伊丹村は、当初は材木町・鍋屋町など 15 の町で形成されていました。町場は次第に拡張し、江戸中期には 27 町に増えます。

発掘調査では、町屋のようすをうかがえる遺構・遺物が多く検出されます。その中で、伊丹郷町の主産業であった酒造業に係する遺構も多く検出されます。

酒蔵は江戸前期は現在の産業通り周辺に点在しており、4 × 5 間以上の礎石建物、釜場や搾り場などの酒造遺構も単基式のものが検出されます。

江戸中期には産業通りの西側・南側にある町屋地域にも広がり、礎石建物も 6 × 6 間以上と大型化します。それに伴い、礎石下には数段の根石を設けるようになります。釜場や搾り場も単式に加えて 2 基連式のものが出現し、酒造業の発展が遺構からもうかがえます。

江戸後期になると、有岡城廃城後に畑地となっていた大溝筋より東側の地域にも酒蔵が建てられ、伊丹郷町内に広く点在するようになります。建物はさらに大型化し、6 × 10 間以上となり、搾り場なども 4 基一体のものなどが出現して、酒造業がさらなる発展期を迎えたことがうかがえます。

文献資料から、伊丹郷町の酒造業は、元禄年間から享保年間（17 世紀後半～18 世紀初頭）、文化・文政年間（19 世紀前半）に盛期を迎えたことがわかっており、発掘調査成果と一致します。

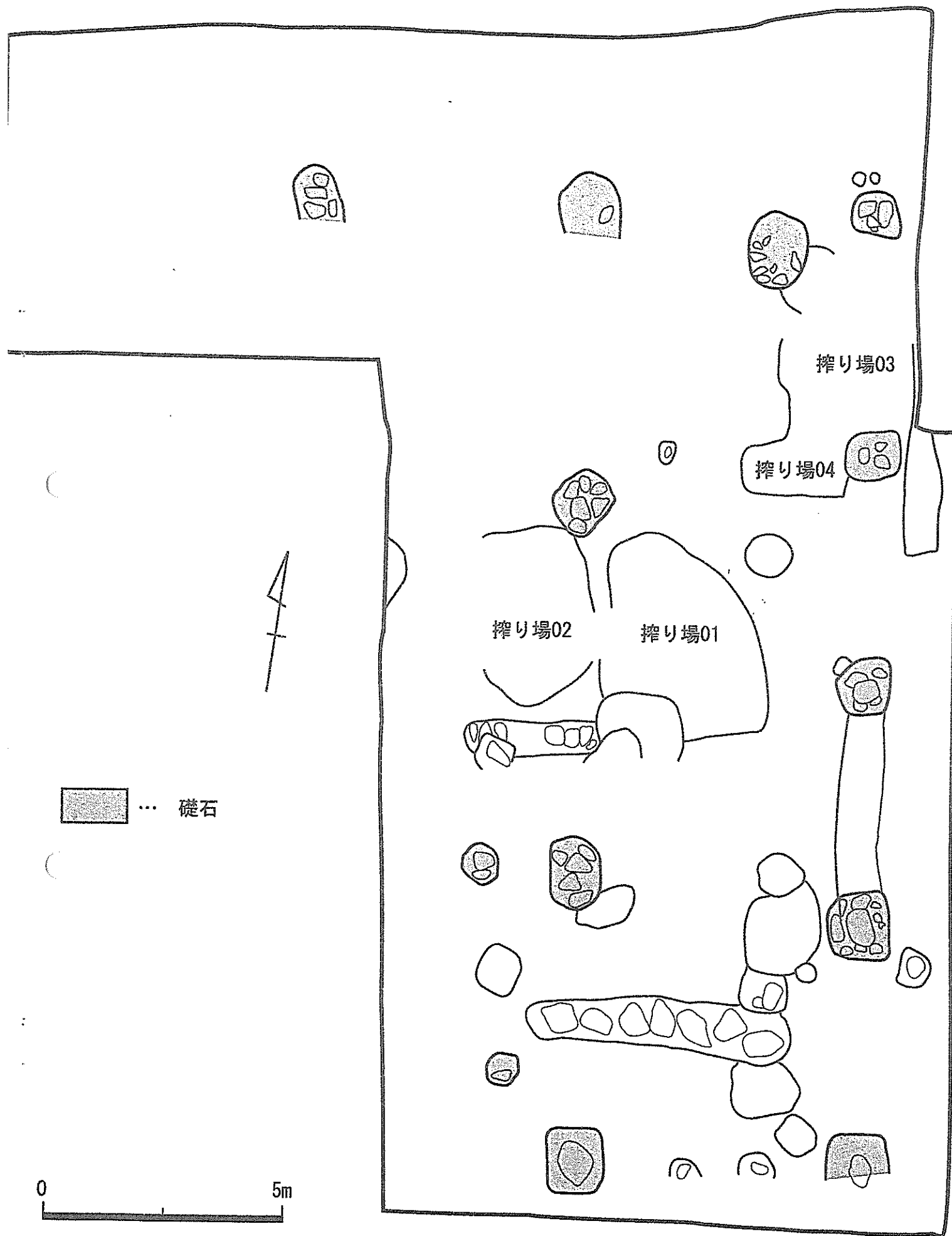


第2図 位置図「有岡城惣構え」

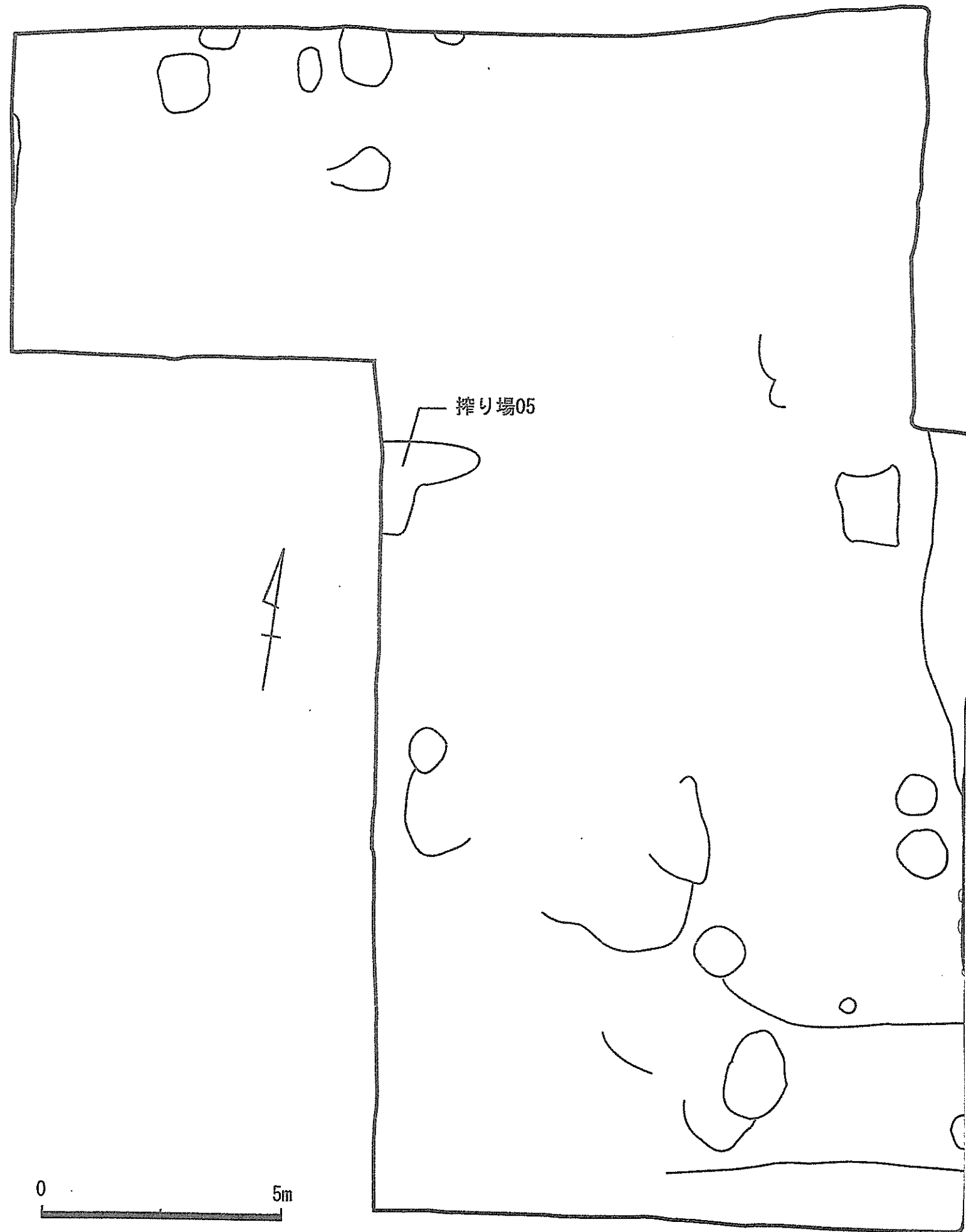
「伊丹市全図 (平成 15年)」

有岡城跡・伊丹郷町遺跡

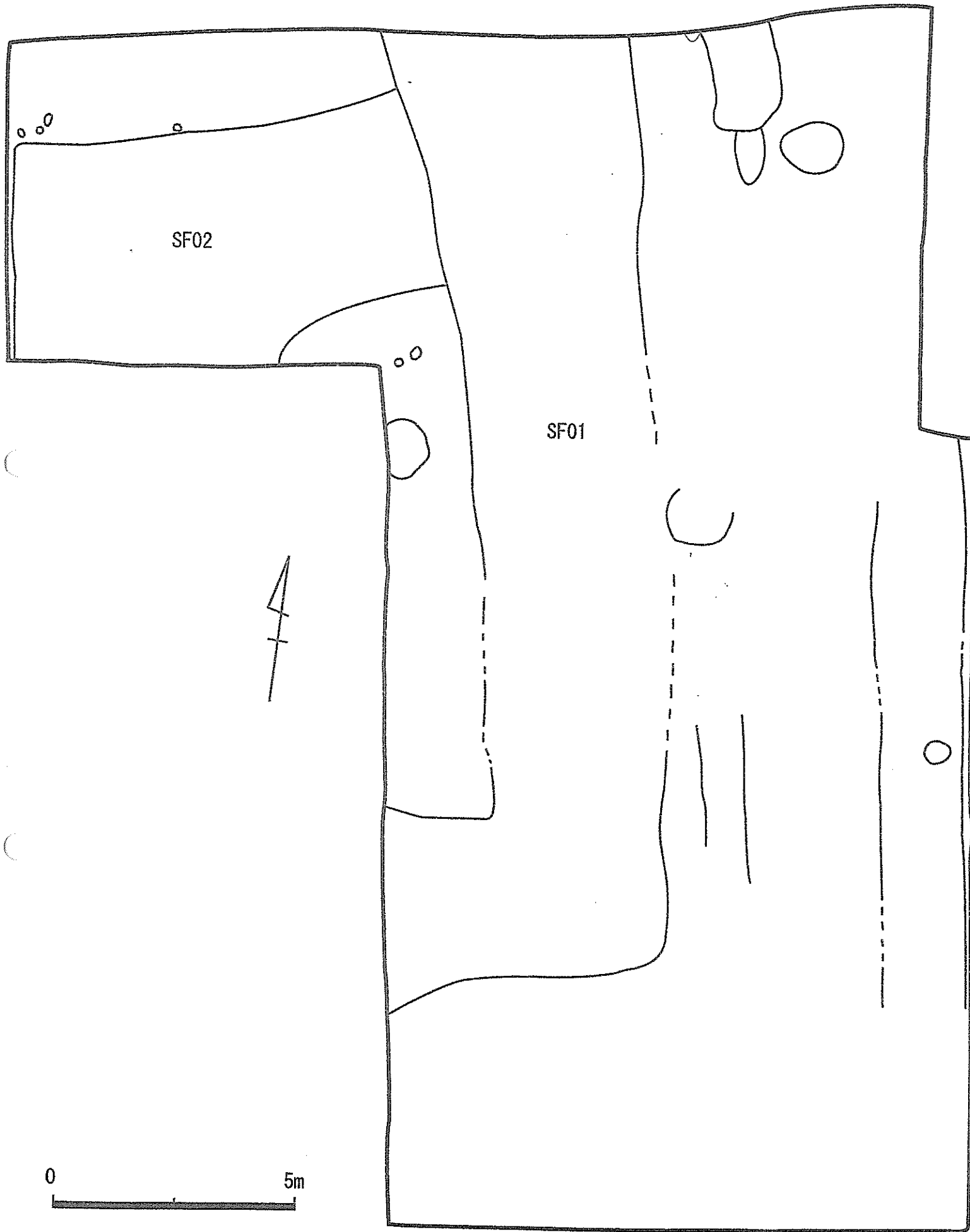
第1図 位置図「有岡城跡・伊丹郷町遺跡」



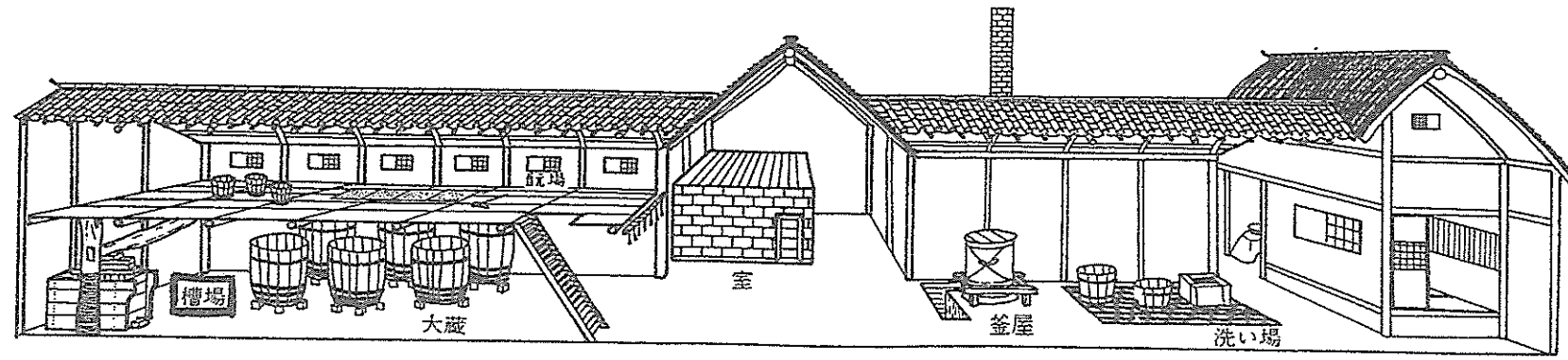
第5図 第1次面 平面図 (S=1/100)



第6図 第2次面 平面図 (S=1/100)

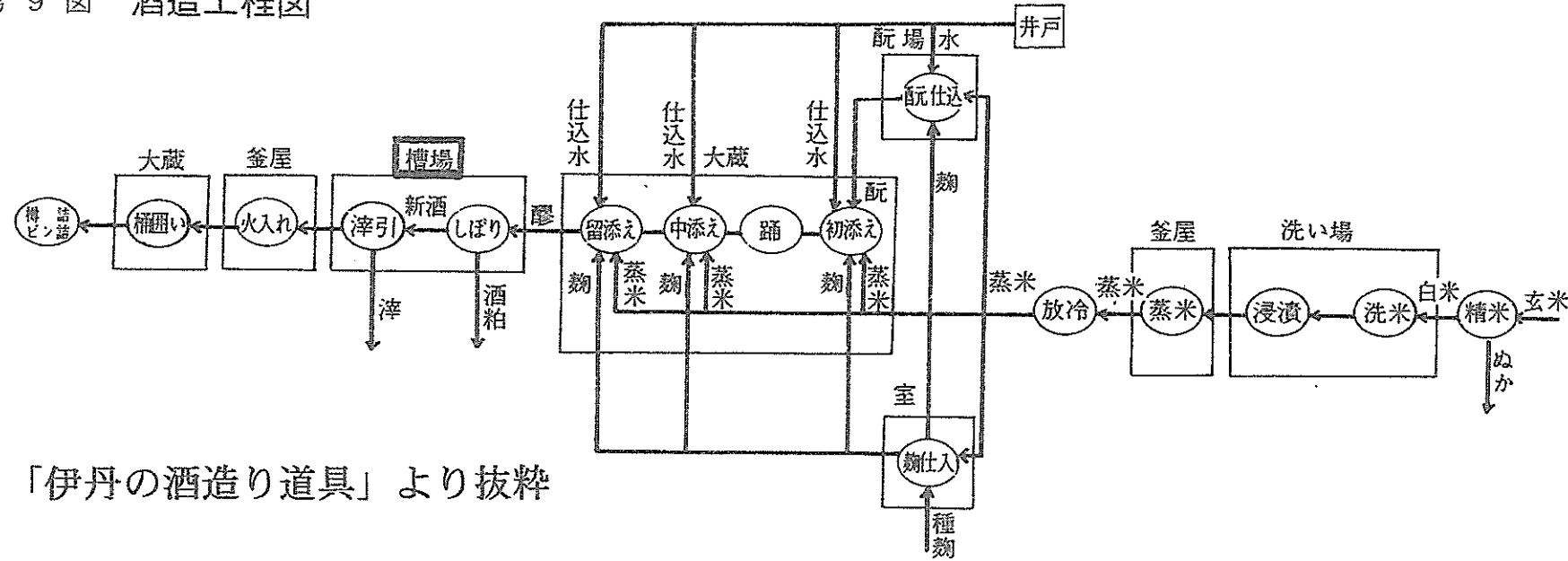


第7図 第3次面 平面図 (S=1/100)

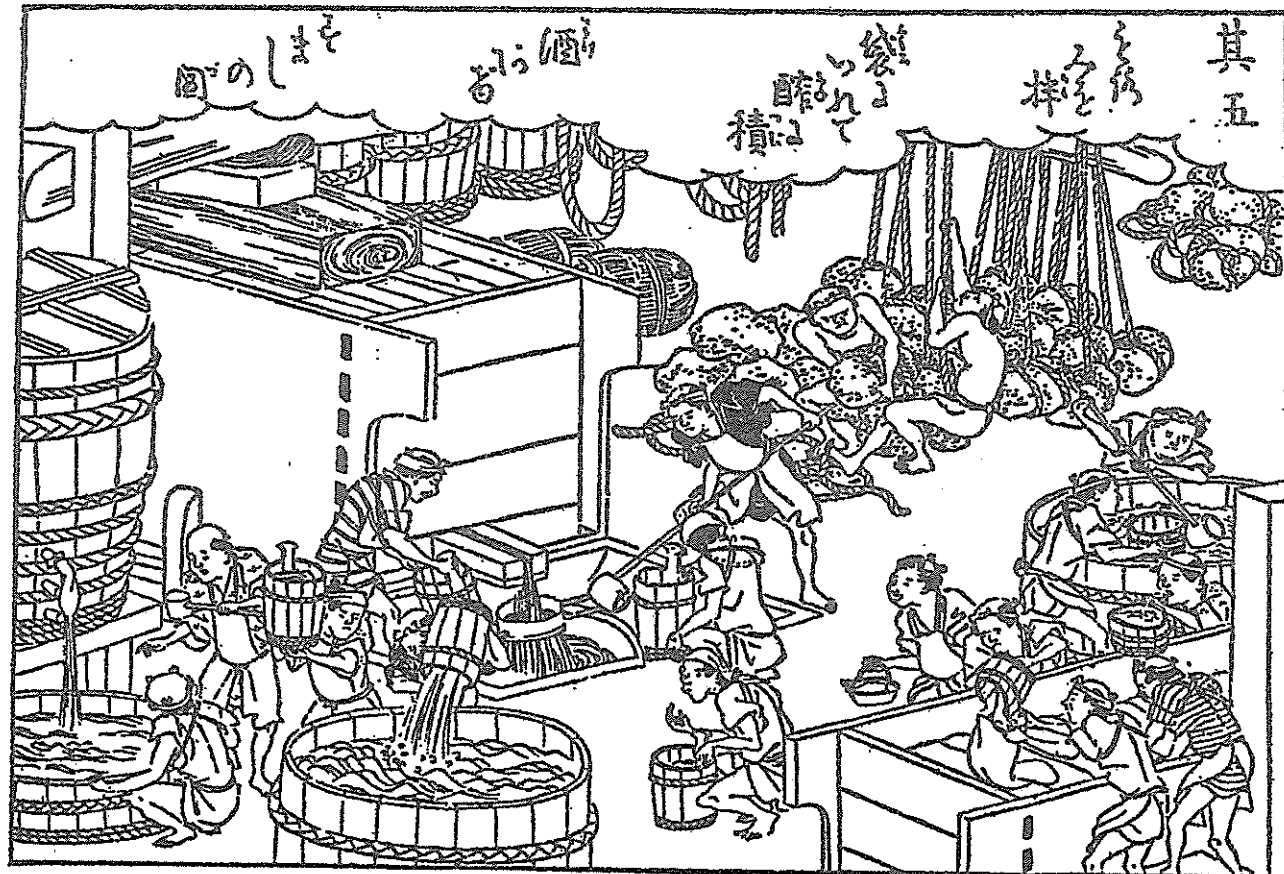


第 8 図 酒蔵模式図

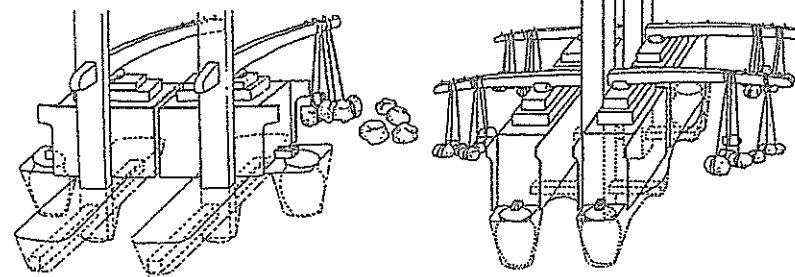
第 9 図 酒造工程図



「伊丹の酒造り道具」より抜粋



第 10 図 しぼりと澄まし(『日本山海名産図会』より)

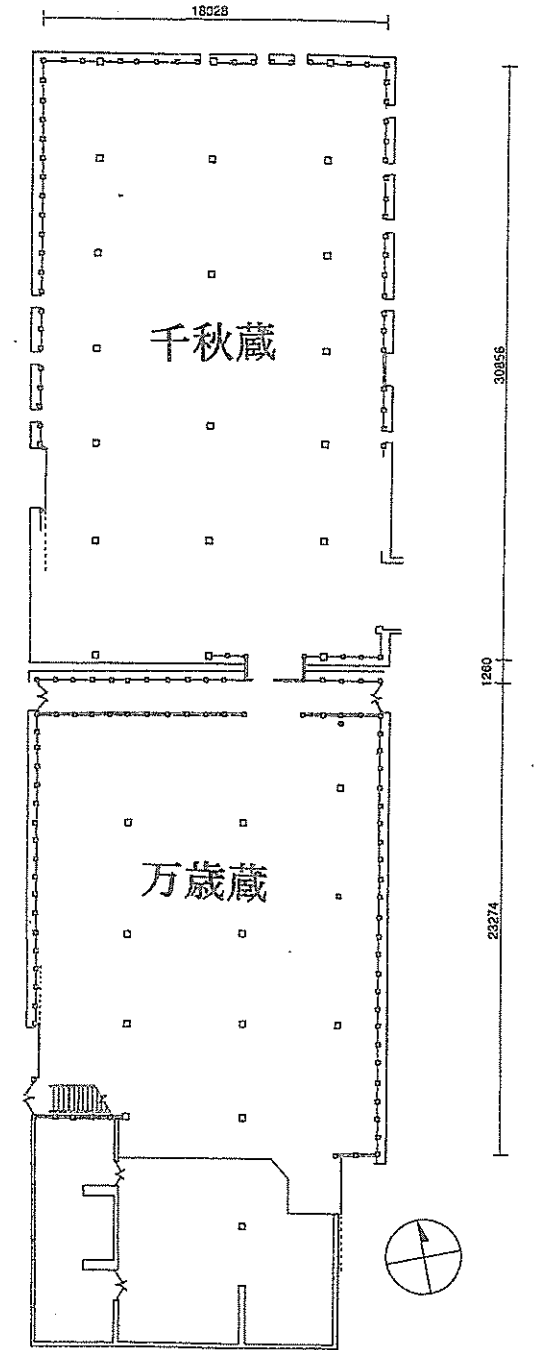


第27次調査SK128・130遺構図
復原図

第17次調査SX01
復原図

第 11 図

「伊丹歴史探訪」より抜粋
(川口宏海『伊丹郷町と酒造業』)



小西酒造(株) 万歳号蔵・千秋蔵平面図

第 12 図

「伊丹の歴史的建造物」より抜粋